

第四講 （補論） ギリシア史料と『エステル記』に見られるオリエンタリズム

ギリシア文献によるオリエンタリズム

ヘロドトス

ハーレムと一夫多妻の世界

妃の美を臣下に見せびらかせようとする＝無法

豪華な宴会を伴う生活

君主の意志薄弱（臣下やハーレムの女性の影響を受けやすい）

残虐な大量処刑

クテシアス

クニドス出身の医師（前 5/4 世紀）

アルトクセルクセス 2 世に仕える

王母パリュサティスの信頼を得る

『ペルシカ』『インディカ』を著す

宮廷ゴシップ

虚栄心

残虐な報復

後宮の干渉

プルタルコス『アルトクセルクセス』

クテシアスに依拠する記述

パリュサティスの報復：カリア人の男、ミトリダテス、宦官のマ

サバテス、王妃のスタテイラ

虚栄心

残虐な報復

後宮の干渉

ギリシアの文献が示すオリエンタリズムの指標

豪華な生活

無法性

君主の虚栄心の強さ

残虐性

意志の弱さ＝他人の影響力の強さ

後宮の干渉

『エステル記』に見られるオリエンタリズムの対応箇所

豪華な宴席 (1.3-1.9)

廷臣を集め 180 日間酒宴を続ける (1.4)

庶民の為の 7 日間の酒宴 (1.5)

後宮の女性のための酒宴 (1.9)

Cf. 酒宴の豪華さはクテシ阿斯断片 39=Athen. 4, 27 p.146C に記されている。それによればペルシア王は 1500 人もの人々を食卓に招き、400 タラントンの費用を費やしたという。

アッカドのサルゴン：5400 名を食卓に招く (S. Kramer, 1963: *The Sumerians: Their History, Culture, and Character*, 61)

後宮の存在

後宮の女性のための酒宴 (1.9)

若い乙女らを帝国全体から集める (2.2-2.4)

女部屋の存在 (2.9：エステルと 7 名の侍女の為の部屋)

王の呼び出しがないと王に会うことが出来ない (4.11：エステルがモルデカイに答える)

Cf. 一夫多妻。Hdt. I. 135 (γαμέουσι δὲ ἕκαστος αὐτῶν πολλὰς μὲν κουριδίας γυναῖκας, πολλῶ δ' ἔτι πλεῦνας παλλακὰς κτῶνται.)。ハーレム像を形成するうえで少なくない役割を演じた (P. Briant, *From Cyrus to Alexander*, 2002, p.283) .

王妃ワシテを臣下の席に呼ぼうとする (1.11)

＝カンダウレスの行為と対応

カンダウレスの場合は妃が報復を執行し、アハシュエロスの場合はアハシュエロスが報復を行う (1.12-1.21)

ワシテの行為を悪行と断罪するメムカンの意見（1.16）はオリエントの慣習に反する。

Cf. ギリシア人の世界でも女部屋は男部屋とは区分され、女性たちが人目に触れるのははしたない行為と考えられていた。

Hdt. I. 8-12: ギュゲスとカンダウレス王の話。 ἄνομος (Hdt. I. 8. 4: 無法)。

マケドニアのアレクサンドロスによるペルシア人使節の殺害 (Hdt. V. 18-20)。

宴会の席に家の女性たちは同席せず、ヘタイラ（女友達）と呼ばれる女性たちを同席させた

Cf. 怒りに任せて妃のワシテを遠ざける。 Cf. Hdt. IX. 112 (マシステスの妻に対する処置)

ハマン、次いでエステルの影響を受けて政策を決定・変更する意志の弱さ；他人に影響され易い

ハマンにユダヤ人問題を全権委任する (3.10)

Cf. アイスキュロス『ペルシア人』のなかでアトッサが息子クセルクセスの他人に影響されやすい性格を嘆く場面。

Hdt. VII. 10 (一族の長老アルタバノスの反対とマルドニオスに対する批判)。 12-15 (クセルクセスの動揺)

エステルにその願いをなんでもかなえると、更に国土の半ばを与えると約束 (5.3；6) = 後宮の影響力の大きさ

Cf. Hdt. I. 11-12 (王妃に迫られるままギュゲスはカンダウレス王を弑逆する)； Hdt. III. 134 (王妃アトッサに求められるままダレイオスはギリシアにデモケデスを派遣する)。

クテシアス断片 13 (アテナイオス) は、カンビュセスがアプリエスの娘ネイテティスの願いを受け入れてエジプト遠征を決断したと記している。またダレイアイオ

ス（オコス）は妃パリュサティスを第一の忠告者としたとクテシアスは記している（断片 15）。

Cf. クテシアス断片 27: キュロスの遠征に協力したスパルタの将クレアルコスの処刑には妃のスタティラが大きく影響している。

残虐な大量処刑を推奨

ハマンの計略によってユダヤ人を大量処刑しようとする
(3.6-14)

首都のスサで 500 名 (9.6; 12) と 300 名 (9.15)、地方で 75,000 名 (9.16) を殺した

ハマンの 10 人の子を処刑し、磔刑に処す

Cf. Hdt. IX. 113 (マシステスの一族とその一党を壊滅させる)

クテシアス断片 16: パリュサティスはアルテュピオスとアルシテースの処刑、パルナキュイアス、宦官アルトクサレース、反乱を企てたテリトゥクメースの母親と兄弟、姉妹の処刑を主導している。パリュサティスは小キュロス戦死に関係したバガバテース、カラミトラダテースを生きのまま皮を剥いで処刑したり拷問の末処刑したりしている (Cf. 断片 26 (=Plut. *Art.* 14))。

Plut. *Art.* 14.5 (カリア人: 目を抉り出し、耳に溶けた真鍮を注いで処刑)、16.1-4 (ミトリダテス: 肉体を蛆によって腐らせて処刑)、17.5 (宦官のマサバテス: 皮を剥いで処刑)、19.3-4 (スタティラを毒殺)。